

事業名称	ライフミュージアムネットワーク		
実行委員会	ライフミュージアムネットワーク実行委員会		
中核館	福島県立博物館		
	住所	〒965-0807 福島県会津若松市城東町 1-25	
	TEL	0242-28-6000	FAX 0242-28-5986
	ホームページ	https://general-museum.fcs.ed.jp	
構成団体	南相馬市博物館、はじまりの美術館、三島町生活工芸館、一般社団法人ふくしま連携復興センター、原爆の凶丸木美術館		
事業開始時点の課題分析	<p>東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故を受け、福島県立博物館では、文化財レスキュー及び文化庁の支援による「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」「震災遺産保全プロジェクト」を中心に、文化芸術による復興支援事業を行って来た。それらの活動により、震災・事故の記録の蓄積、福島県内外の人的ネットワークの構築、文化施設・諸団体間の連携と協働など多様な成果が上がり、ミュージアムの新たな役割を活かした震災・事故後の福島の復興・教訓についての発信も行えた。一方、状況の変化等により、①時間の経過による震災の記憶(教訓)の風化、②避難先(特に広域避難)での生活、帰還後の生活への不安、③復旧工事・除染作業による環境の変化、④コミュニティの記憶の喪失、といった課題が浮かび上がっている。本実行委員会の中核館である福島県立博物館は「福島県立博物館の使命」に「博物館活動による(震災からの)地域社会の再生と活性化」を掲げているが十分な成果を達成するには至っていない。</p>		
事業目的	<p>大震災・大事故が生み出した被害と復興の過程で顕在化した課題は、すべて「いのち」と「暮らし」につながるものであった。そしてそれらは、日本各地が抱える課題と共通する普遍性も持つ。本事業は、大震災・大事故を経験した福島県の体験を被災者・被災地の課題として限定せず、広く個人と生活の課題として普遍化し、人口減少・コミュニティの喪失・環境保全・障害など震災被害に限らない多様な課題の解決に資することを目的とする。</p> <p>具体的には、福島県を日本各地が共有する課題解決の実践のフィールド「ライフミュージアム」と捉え、歴史と知の集積体であり共有・発信の場であるミュージアムの特性を活かしたネットワークの構築により、「いのち」と「暮らし」に向き合う文化的基盤を拡張・強化する。それにより、未災地の被害軽減と福島の復興の加速化に貢献し、福島の新たな地域プライドを育成する。</p>		
事業概要	<p>(1) 「いのち」と「暮らし」に向き合うミュージアムネットワークの構築 福島県内で課題・災害に向き合う文化施設・団体、福島県外で「いのち」と「暮らし」等をテーマにする先進館・研究者・NPO・アーティストのネットワークを構築し、実践にあたるワーキンググループを組織して事業を企画・実施する体制を築く。また、本事業の目的を継続的に達成するための体制の一環としてライフミュージアムの概念を強化し発展させるコンソーシアムの設立を準備した。</p> <p>(2) 福島をライフミュージアムと位置付けた実践 ①生活(日々の生業)、②環境(生きとし生けるもの)、③人権(人の生き様)、④記憶(忘れないこと)をコアテーマに設定し、ミッションを共有する施設・団体・アーテ</p>		

	<p>リストによるこれまでの活動成果へのリサーチ、リサーチ結果を活かした一般参加のディスカッション・フォーラムによって課題を抽出し、取り組むべき具体例を絞り込んだ。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</li> <li>□イ ユニークベニューの促進</li> <li>□ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</li> <li>□エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</li> </ul> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</li> <li>□イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</li> <li>■ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</li> <li>□エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</li> </ul> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</li> <li>□イ 文化財の新たな保存管理・活用手法の開発</li> </ul>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業により、「いのち」と「暮らし」に向き合う活動をおこなっている福島県内の文化施設、大学、行政等とのネットワークの構築、同じく「いのち」と「暮らし」に向き合う活動を行っている福島県外の先進的ミュージアム、研究者、有識者とのネットワーク構築を行った。その中で、ライフミュージアムのコンセプトを共有し、福島をフィールドとした「いのち」と「暮らし」に向き合う活動の具体像、その基盤としての東日本大震災の記憶の継承の意義を認識しあうことができた。</p> <p>県内外での先進事例の調査、オープンディスカッション、フォーラムの開催により、それぞれの地域の先進事例の成果と課題を一般参加者と学び、福島における課題の抽出、取り組むべき具体例についての議論を行えた。</p> <p>県内外のネットワークの構築は、これまで点と点であり、接点のなかった、各館や各団体のつながりを生み、各館が有する経験や知識の共有と新しい発想の創出の可能性が実感できた。ネットワークの構築は、大災害などの不測の事態においてミュージアムが役割を果たすために、常日頃より備えておくべきことであることが共有化できたのは大きな効果だった。同時に事務局の体制強化が事業成果をあげる上で必要であることも認識できた。</p> <p>先進事例の調査、オープンディスカッション、フォーラムの開催は、ミュージアム関係者および一般参加者に、「いのち」と「暮らし」に向き合うことの大切さ、記憶の継承の困難さと意義、そこにおけるミュージアムの役割などを問いかけることとなり、参加者のミュージアムへの意識を変えるきっかけとすることができ、ミュージアムへの期待を高めることができた。また、本年度の活動記録まとめた記録集の編集・発行により、ライフミュージアムのコンセプト、ミュージアムの役割等を明文化、視覚化することができ、コンセプトの発信につなげた。</p>

## 【事業実績】

### 先進事例調査の一例



**NPO 法人クリエイティブサポートレッツ 調査風景**  
2018/9/27 障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァ  
「いのち」と「暮らし」への視点を重視した福祉と文化事業、ミュージアムとの連携等について活動実績を調査。



**中越メモリアル回廊 調査風景**  
2018/12/25 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい  
「いのち」と「暮らし」を基盤とした、災害からの復興拠点としての文化施設の実践を調査。

### オープンディスカッションの一例



**連続オープンディスカッション「時を語るミュージアム」**  
第2回「ヒロシマ・コレクション」めぐって  
2018/11/18 福島大学  
広島平和祈念資料館、鞆の津ミュージアムの先行事例を基調としたミュージアムの役割と災害・記憶についての議論。

(参加者の声)

- ・東日本大震災を経験して、広島を含む歴史的な出来事の一つ一つが、多大な混乱の中にあることなのだと思います。
- ・土田さんのいう「アーティスト」と市民をつなぐ「ミュージアム」の在り方を追求してってください。



**塩竈オープンディスカッション「つくるはじめるミュージアム」**  
2019/1/9 塩竈市杉村惇美術館  
塩竈市杉村惇美術館と大原美術館の選考事例を基調としたミュージアムの役割と災害・連携についての議論。

(参加者の声)

- ・住民に根差して共同していくことが大切だと思われました。ミュージアムに対する考え方、特に市民へのアプローチを考え直すことも必要かもしれません。

### フォーラム

**フォーラム「語り継ぐために—ひとりの思いが未来をつくる」**  
2019/2/3 福島県立博物館  
東日本大震災の記憶をいかにのこしていくか、ミュージアムの役割について、県外の連携事例の報告も含めて議論。

(参加者の声)

- ・マイナスなことをいかに伝えるかという県外の取り組みを知ることができ、勉強になりました。
- ・これからの問題に向き合う大切なキーワードを多くいただきました。



(参加者の声)

- それぞれの立場での語りが大変参考になり、時間が短く感じられました。
- 今後も継続して発信していかれるのを希望します。
- 講師のみなさま、参加者のみなさまのそれぞれの立場での意見がお聞きできる貴重な場をありがとうございました。学び多きつながりの会でした。年数の経過による変化、引き継ぎの際の工夫、「主体」がどこにあるかで変化する心と様子などなど、みなさんが同じような課題を持っているものだなと感じました。改めて言語化して頂くことで、ちらかっていた頭の中が整理できました。